



平成24年4月4日

## 第20号

宮城教育大学ESD・RCE推進会議から、学内外のESD・RCEの取り組みやニュースをお知らせします。

### I. これまでのESD 関連事業報告

#### 1. 環境フォーラムせんだい2011開催(2月5日・日)

せんだいメディアテーク・オープンスクエアにて、環境教育実践研究センター、仙台広域圏ESD・RCE運営委員会、仙台いぐね研究会を含む19団体が参加した「環境フォーラムせんだい2011 “環境” 震災で見えてきたこと〜」が開催された。各参加団体の展示ブースのほか、仙台市環境局環境都市推進課が作品の制作を通して、環境への理解と関心を高めるとともに、環境のために行動を起こす人の環をさらに広げていくことを目的に開催している「かんきょうチャレンジコンクール」の作品展示・表彰式、「四谷用水を街並みに！」市民の会による紙芝居や、八木山動物公園関係者による取り組み発表などのステージや、クイズ(文字さがし)など子どもたちが楽しめるイベントとなった。



#### 2. イリーナ・ボコバ ユネスコ事務局長講演会(2月14日・火)

東北大学片平キャンパス 片平さくらホールにて、イリーナ・ボコバユネスコ事務局長の「震災後の連携：ユネスコのヒューマニスト・メッセージ」と題した講演会が開催された。イリーナ事務局長ははじめて、市民がユネスコのミッションを進めたユネスコ発祥の地・仙台を訪れ、逆境にあっての連携の必要性、取り残された人たちがいないようにお互いの教訓から学ぶ、変化を万人の善のために、などのメッセージを発信した。





### 3. 第1回国際シンポジウム（お茶の水女子大シミュレーション科学教育研究センター）2月16日・木

第1回国際シンポジウム「ポスト 3.11 日本の未来図を描く」に出席した。お茶の水女子大元岡展久准教授の講演「災害と都市計画」に続き、カリフォルニア大学ロサンゼルス校芸術・建築学部都市・建築学科より阿部仁史教授とサンフランシスコ NEW PEOPLE, Inc. 代表取締役社長の堀淵清治氏による「日本に求められる価値、人材」の特別講演があった。個があって繋がる、日本のライフスタイル（ちえ、考え方、教育など）は輸出できる、復興計画の評価・情報共有、コミュニケーション能力、自立する（依存しないことを意識する）、グローバル化の変化・特色（人類・人種・文化の違いより個人の違いが大きくなる）などの総合討論が行われた。



### 4. 『震災の教訓を活かした復興地域づくり』情報共有&国際シンポジウム（3月27日（火）・28日（水））

仙台市、名取市、気仙沼市、南三陸町という、東日本大震災により被災した4市町の現地巡検及び現地討論会を開催した。27日は仙台平野の津波被災地域を巡検した後に気仙沼市へ移動し、「気仙沼の地域づくり」をテーマに意見交換会を開催した。参加者からは気仙沼市の復興について、活発な意見が交わされた。翌28日の国際シンポジウムでは、シンポジストとして、インド RCE・Srinagar から Dr. A.Kumar Gangwar 氏をお招きし、2004年に発生したスマトラ島沖地震からの復興について講演をいただくとともに、JICA 東北教師海外研修 in インドネシアの参加者を交え、「震災の教訓から見た復興地域づくり」をテーマに講演・意見交換を行った。シンポジウム後は、気仙沼市内を巡検した後、南三陸町を經由しながら仙台市へ戻り、2日間の日程を終了した。この2日間を通して震災1年後の現状を再確認するとともに、今後の復興及び地域づくりを考えていくうえでの契機となる内容であった。

